

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 4月 24日現在

機関番号：32665

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22730408

研究課題名（和文） 社会的ネットワークの測定と地域比較の多母集団解析

研究課題名（英文） Empirical Research on Social Network Measurements and Multiple Population Analyses

研究代表者

菅野 剛（SUGANO TSUYOSHI）

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：10332751

研究成果の概要（和文）：近年、理論的にも実証的にも、社会的ネットワークの重要性が増してきている。その際に、社会的地位や社会意識など蓄積の多い分野と異なり、測定の方法にはさまざまな方法がある。社会的ネットワークを用いた研究では、先行研究での知見の整合性について慎重に検討する必要性が高まっている。本研究では、桐生市、吹田市、世田谷区、府中市、足立区、中央区といった都市度が異なる地域調査データを用い、複数地域を同時に扱う多母集団解析を用いて、社会的ネットワークの測定について調査研究を行う。

研究成果の概要（英文）：Social network analysis is getting important in social science these days. However, several empirical findings on social network tend to be inconsistent. One of the reasons is difference of measurements and variables. The purpose of this research is to clarify validity and reliability of measurements on position generator items. Confirmative factor analysis and multiple population analysis supported measurement invariant model in random sampling survey conducted at Kiryu-shi, Suita-shi, Setagaya-ku, Fuchu-shi, Adachi-ku and Chuo-ku in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	300,000	90,000	390,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学、社会学

キーワード：(1) 社会的ネットワーク (2) 社会階層 (3) 多母集団解析 (4) 測定 (5) 社会調査 (6) 地位ジェネレータ (7) 地域調査 (8) 生活の質

1. 研究開始当初の背景

近年、社会関係資本やソーシャルキャピタルといった重要なテーマに関連して、社会関係や社会的ネットワークに関する研究の蓄

積が著しい。また、一般社会でも、無縁社会という言葉が一時期たいへん注目を集めた。理論的にも、実証的にも、応用研究において、社会的ネットワークの重要性が増してきて

いると言える。その一方で、その測定や方法論といった基礎的な課題については、より慎重な研究が必要となってきた。

人々の社会的ネットワークを測定するためには、これまで、ネーム・ジェネレータ、地位ジェネレータ、資源ジェネレータ等が用いられてきた。また、ボランティア活動、町内会活動、PTAなどの社会参加活動の有無や、頻度を問うことで社会的ネットワークのあり方を測定したり、あるいは、電子メールやインターネット、携帯電話などのパーソナル・メディアに注目する形で測定をするなど様々な方法がある。それぞれの調査の目的や、研究分野によって、質問項目・選択肢には多様なものがあり、それぞれの調査で工夫され、個別に測定されている。

これら様々な指標は、当然のことながら、研究ごとに測定している中身が異なるため、一見すると、ファインディングスが一致しない場合もある。社会的地位や社会意識などのように、先行研究が豊富に蓄積している場合は手堅いが、新規に調査項目を作成する場合、調査項目の本来の意図が実際に測定された内容にきちんと反映されているかどうかについては、慎重な検討が必要である。このような基礎的な裏付けを欠いたままで、有意な効果を持った変数をネットワークの効果としてアドホックに言及することの危険性については、十分に注意する必要があるように思われる。

2. 研究の目的

様々な貴重な先行研究に学びながら、ネットワークの様々な測定法と指標についての方法論的分析を行い、より正確な測定のために、それぞれの指標の特徴、意味、違いを検討することが本研究の目的の一つである。

ネットワークの測定においては、家族・親戚・友人・近隣・職場等の領域、相談・援助・余暇等の相手との関係内容、交際の頻度や方法、関係の強さ・広さ・深さ等、様々な項目が扱われてきた。コストがかかるが詳細な情報を得られる測定法から、簡便だが効率のよい測定法に至るまで、様々な質問項目が存在する。本研究では、これら種々な特徴を持つネットワーク指標の相互の関連を分析するとともに、地域調査データを用いて測定モデルについて検討する。

3. 研究の方法

これまで、桐生市、吹田市、世田谷区、府中市、足立区において、各地区にてフィールドワークを行うとともに、無作為抽出に基づく調査規模約 1600 程度の郵送地域調査を行ってきた。

桐生市は群馬県東部に位置し、面積は 274.57 平方キロメートル、人口約 12 万人、人口密度 435 人/km²の機業都市である。

吹田市は大阪府北摂地域に位置し、千里ニュータウンがあり、人口約 36 万人のベッドタウンであり、人口密度は 9910 人/km²である。

世田谷区は東京都 23 区西部に位置し、23 区内では、面積は 58.08 平方キロメートルと大田区について広く、人口は約 88 万人で 23 区では最多である。人口密度は、15200 人/km²である。

府中市は東京都のほぼ中央に位置し、面積は 29.34 平方キロメートル、人口は約 26 万人であり、人口密度は、8710 人/km²であり、多摩地域の主要都市である。

足立区は東京 23 区の北東部に位置し、面積は 53.2 平方キロメートル、人口は約 69 万人、人口密度は 12880 人/km²である。

以上のような、都市度や地域の違いを考慮しながら、社会的ネットワークについて地域比較分析を進める。また、社会階層と社会移動に関する全国調査(SSM)などの大規模な全国調査では、いくつかの重要な項目が測定されている。質の高い全国調査データと、カスタマイズが柔軟な地域調査データの活用を組み合わせることにより、様々な角度からネットワーク指標を分析し、詳細な比較を行うとともに、結果の一般性についても検討を行う。これらの蓄積の上に、中央区において同様の枠組みの郵送地域調査を実施し、ネットワーク指標の測定について地域比較研究を行う。

4. 研究成果

(1) 桐生市、吹田市、世田谷区、府中市、足立区に加え、中央区にて同様の調査を実施した。中央区は東京都のほぼ中央に位置する。面積が 10.18km²と、23 区の中で台東区について 2 番目に小さい。人口は約 13 万人であり、千代田区について少ないが、昼間人口は 65 万人となる。人口密度は 12560 人/km²である。

そして調査後に、様々な調査作業を行い、データをマージする作業を行った。その際に、それぞれの地域の人口規模の違いや回収率の違い等の問題もあり、地域比較分析には慎重な検討や準備が必要となっている。

ネットワークの指標としては、例えば、地位ジェネレータを元に、より社会的に上層に位置する他者との接点をスコア化し、社会的勢力や権力の度合いを求めることが出来る。あるいは、より多くの多様な職業の他者と接点がある度合いをスコア化し、ネットワークの多様性や異質性を求めることが出来る。

また、個人を中心とした、複数の重要な他

者の間の社会関係の有無により、互いに全員知り合いであるのか、あるいは互いには知り合いでないのかによって社会的密度を求めることが出来る。このようなスコアを求め、地域や社会的属性ごとの違いについて記述的な分析を行った。

これらの記述分析をさらに発展させ、多母集団解析を用いたモデルについても分析を進めている。その結果、重要な指標については、地域にかかわらず、比較的に安定して測定が出来ていることを確認している。ただし、サンプル数が多くなり、比較する地域も増えてきたため、分析モデルについては改善が必要であり、今後も慎重に検討を進めることになる。

(2) また、従来の指標の分析に加えて、郵送調査の返信封筒に対する「御中」の記入有無を、社会関係の持ち方に関連する一つの変数として取り上げ、調べる分析を新たに試みた。返信封筒は回収後通常破棄され、「御中」の記入有無は分析の対象として取り上げられないことがない。しかし、回答者の敬語の用い方、丁寧な姿勢・対応の表れと捉えたと、Bernstein や Bourdieu での言語や文化資本の階層差や、社会関係の持ち方、社会的ネットワークのあり方と関連づけて考えることができる。

郵送調査では、返送された調査票に調査対象者からの回答が記載されており、これらがデータとして分析に用いられる。一方で、返信封筒は、データ収集のための調査票とは別個のものである。刻印されている投函された日付をもとにして、回収時期と回答の質の関連や、回収率の経過を分析するためのデータとして用いられることはある。しかし、返信封筒に潜む情報は、郵送調査票で得られるデータに比べると、必ずしも注目されてこなかったと言える。

調査対象者が返信封筒に何らかの反応をしているとすれば、それらの情報について一考することも重要かもしれない。例えば、返信封筒の宛名において、「宛」や「行き」を二重線で消し、「御中」という言葉に丁寧に修正をして頂くことがしばしばある。このような行為の中に、回答における丁寧さ・質の高さを表すという可能性が考えられる。つまり、御中記入の有無が、調査票の回答項目における無回答の多さ／少なさと関連しているかどうかを分析することが出来る。

また、回答者の社会文化的な側面を表すという可能性も考えられる。つまり、御中記入の有無が、調査票における回答者の属性、社会階層変数、意識変数、その他の変数と関連しているかどうかを分析することが出来る。

御中記入の有無の割合は、地域によって多く異なり、世田谷区 62.9%、府中市 56.7%、

足立区 45.6%、桐生市 39.3%であった。

これらのデータでは、年齢、学歴、収入などの分布が都市度に伴って異なっており、社会的属性の違いが御中記入の有無の地域差の一因ともなっている。

それぞれの地域ごとに、

- a. 性別、年齢、居住年数、居住形態、婚姻状態、同居家族数といった回答者属性
- b. 最終学歴、世帯年収、個人年収といった社会階層変数
- c. 価値志向(学歴重視、地位重視、収入重視、趣味重視、参加重視)、階層帰属意識、生活満足度、友人満足度などの意識変数

について、御中記入の有無と、無回答ダミー個別変数との関連を探ると、有意なものが散見される一方で、無回答率が低いため、強い関連は見えづらい。

一方、a. 回答者属性、b. 社会階層変数、c. 意識変数ごとに、それぞれ無回答ダミーを合計したスコアを求めると、御中記入の有無による有意差が確認できた。

また、御中記入の有無に対して、調査票に含まれる様々な変数との関連を探ったところ、学歴、年収が高いほど御中と記入する傾向が見られた。また、男性に比べると女性の方が御中と記入する傾向が見られた。

分析の結果、御中と記入をしている場合は、調査票における無回答の割合が低く、御中と記入をしていない場合は、調査票における無回答の割合が相対的に高めであった。このことから、返信封筒に御中と調査対象者が記入をすることは、調査票への回答における丁寧さや質の高さを示唆している可能性がある。

また、属性との関連では、女性の方が御中と記入をしていた。例えば、対外・対人関係における相手への心配りがこの変数に反映されている可能性がある。社会階層との関連では、学歴が高く、収入が高いほど、御中と記入をしていた。社会階層と知的柔軟性や文化資本との関連は指摘されているが、このような一見何気ないささやかなことから、適切な敬語や丁寧語を使い分けるなどの一種のリテラシーのようなものが反映されている可能性がある。

郵送調査においては、返信封筒は、通常あまり顧みられることがない。しかし、御中記入の有無と調査票の無回答の関連と、社会的属性によって御中と記入する傾向が異なることから、調査対象者の回答への丁寧さや協力の度合いの一側面を表すと思われる情報、あるいは、調査対象者の社交能力、知的柔軟性、リテラシーを反映すると思われる情報が返信封筒に記されている可能性がある。

御中と記入するかどうかについては、問いとして質問文を対象者に投げかけているわ

けではない。その意味では、他の調査項目とは形式が異なるが、場によって何が求められているのかを察知し、対応できるかどうかということが間接的に表れているとも考えられる。郵送調査に限らず、社会調査の実施には、調査実施側にも協力を頂く調査対象者側にも大きなコストがかかる。実施する以上は、少しでも有用な情報を収集することは重要であると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

菅野 剛 「返信封筒を捨てないで！郵送調査の「御中」の意味するもの」行動計量学会 第 38 回学会大会 2010.9.23. 埼玉大学.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅野 剛 (SUGANO TSUYOSHI)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号： 10332751

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし